

上映映画解説

1953, 9

国立近代美術館 フィルム ライブラリー



No. 12

Wege zu Kraft und Schönheit

「美と力への道」鑑賞会について

フィルム・ライブラリーでは、その事業の一部として、歴史的価値のある芸術性豊かな映画を鑑賞し研究する会を開催しております。既に第一回「ジークフリート」(独・一九二四)、第二回「ヴァリエテ」(独・一九二五)、第三回「アッシャー家の末裔」(仏・一九二八)、第四回「ジゴマ」(仏・一九一一)と進み、今回はこの「美と力への道」(独・一九二五)をとり上げることとなりました。

同映画の我が国における封切は、ドイツで公開された翌年の一九二六年、即ち大正十五年一〇月二〇日、新宿・武蔵野館で行われ、当時知識層の映画愛好者の間で、貴重な長篇の実写映画或は学術映画として大いに注目され、或は映画美学の上で、或は体育の観点から種々検討されました。

併し、何分にも、男女全裸の姿がそのまま画面に現われるので、当時の内務省検閲によつて切除された部分も少なくなく、その為、この作品の本来の姿従つてその真価には接し得なかつた憾みがありました。

今回の上映に使われるプリントは、幸にして殆んど原形のまま、長く文部省に保管されていたもので、フィルムの状態もよく、原形で公開されるのは初めてと言つてもよいこの機会に、改めて鑑賞できるのはまことに幸です。

美と力への道

全六篇 十巻

原名 Wege zu Kraft und Schönheit

英語名 Golden Road to Health and Beauty

一九二五年独ウファ社文化映画部製作

—— スタッフ ——

監督：ヴァイルヘルム・ブラーゲル

脚本・学術部面：医学博士ニコラス・カウフマン

美術・学術援助：アイトクル・カムプ教授、フリッツ・クリムシュ教授、カール・エビングハウス教授、アウグスト・ギョスター博士(伯林古代博物館長)

音楽(作曲・編曲)：ジュゼツペ・ベツウエ

撮影：フリードリッヒ・ワイマン、サイゲン・ヒルシュ、フリードリッヒ・ポールマン

高速度撮影：ヤコブ・シアッツォー、エリツヒ・ステッカー。

(内容)

第一篇・古代ギリシャ篇

古代ギリシャの体育場、現代都会の日常生活、嘗ての Marathon 名選手ゴートシュリング老人の日課、等。

第二篇・衛生体操篇

伯林ノイマン・ノイローデ博士考案の「赤ん坊体操」、幼児用体操、小学児童体操、クラツプ教授式の俯屈練習、胸式及び腹式深呼吸、模範的肉体美、等。

第三篇・リズム体操

ダルクローツエ学校の音楽リズム体操、新舞踊家ニツデイ・イム・ベユーフェン嬢の伸縮運動美、ローヘランド学校のリズム体操、アンナ・ヘルマン学校のリズム体操、バス・メンゼンダイク女史の婦人身体美法、等。

第四篇・舞踊篇

世界各国原始舞踊、石井漢、小浪兄妹の新舞踊、カロリン・ドリバ女史のスパニッシュ・ダンス、ラーバン学校の舞踊「生ける偶像」、ニツデイ・イム・ベユーフェンの「花の一生」、石井漢の「囚人」、イエニイ・ハツセルキストの「白薔薇」、舞踊家タマラ・カルサヴィナ、等。

第五篇・運動競技篇

一九二四年オリンピック、走高飛のブラウン・パド

ック、ハードルのメイヤー、女流世界テニス選手権保持者ヘレン・ウィルス、イタリアの名フェンシング一家、バーブ・ルース、等。

第六篇・太陽、空気、水の篇

スコットランドの角材投げ、ハバリア山人の朝化粧法、イギリスのバルフォア卿の庭球、ロイド・ジョージのゴルフ、ノールウェイ皇太子のスキー、ムツソリーニの乗馬、文豪ハウプトマン夫妻、古代ローマ貴婦人の入浴、等。

(解説)

ドイツのウファは、第一次大戦の時に国家的な必要から一種のカルテルとして組織された全映画協同組合ウニヴェルズム・フィルム・アルゲマイネ・ゲゼルシャフトの頭文字をとつた略称で、第二次世界大戦の終りと共に解体されましたが、その期間に、規模において、施設において、傘下に集めた製作者や脚本家や監督や技術者の人材において、また作品の量や質において、ドイツで最大最高であつたばかりでなく、世界に覇をとらえた点で、大きな足跡を遺しました。

そのウファはまた、その文化映画部から、長年に亘つて、長篇短篇、多数の文化映画(クルツール・フィルム)を世に送つた事によつて、映画史上忘れられることができません。

後年には、ナチ・ドイツのプロパガンダ映画が増加し、最後にはそれ一色に塗り潰された感があります。が、それまでは、純粹な科学的或は学術的態度で、自然科学或は人文科学と材を取つた作品を次々と発表し、劇映画、娯楽映画のほかに、一つのジャンルを確立したとさえ言えます。事実、世界各国の学術映画は多かれ少かれ、このウファのクルツール・フィルムの影響を受けて発達しました。また、今日わが国で一面を形作つている「教育映画」も、初期には、それ

によつて眼を開かれ、刺戟されたと言ふことができませぬ。

そのようなウファ・クルツール・フィルムの最初の代表的作品が、今回上映される「美と力への道」です。

そして、この映画の脚本を書き、あらゆる学術的な計画と製作を担当したニコラス・カウフマン博士こそ、ずつとウファ文化映画の製作部長の地位にあつて、この部門と作品を育てて来た人です。

内容は前記の通りで、題名の通り、人間の肉体的な美と力を追求したものです。それは、第一次世界大戦後ドイツに興つた裸体生活運動にも通じ、国力復興の原動力を健全な肉体に求めた意図もあつたでしょう。いづれにしても、この主題に対して、古今東西に亘るあらゆる観点から、かくも体系的に敘述し、解説し、主張した映画は、これ以前は勿論、これ以後にも見当りませぬ。

技術的に言えば、高速度撮影やX線写真や線画などを用いて実に分り易く描写し説明しております。また、実写の中に、劇映画の技法を採り入れ、この年代の頃に各国で種々論議され研究されていたモンタージュの手法を巧みに用いるなど、当時可能であつたあらゆる映画の技法と手法を駆使し、総合して、映画全体をガツチリと組み立てていきます。

更に言えば、野外で、全裸或はそれに近い男女の姿態に対して真つすぐカメラを向けた多数の画面にも、正しい科学の眼と同時に、高い美の感覚が看取されて、輸入された当時それらが検閲の鉄を蒙つたのが不思議なほどです。

後年ドイツでは、同じく体育を扱つた映画として、一九三六年オリンピック競技の記録から「民族の祭典」「美の祭典」という重厚で芸術的香りの高い、更に完成された作品を生んでおりますが、その科学と芸術の

結合がこの「美と力への道」から既に始つていたという感慨が去来します。

製作されてから既に二八年の時代を經過してきますが、以上のような各種の観点から、その当時この作品が果たした役割を振り返り、またその後の映画の成長を見守ることは、実に意義深いと思われませぬ。

(フィルムライブラリー運営委員・島崎清彦)

(追記)

尙ウファ文化映画では、「美と力への道」が公開された翌年の昭和二年(一九二七年)に「宇宙の驚異」(原名 *Wunder der Schöpfung*) が輸入公開されました。第一篇・真理の探求、第二篇・夜の空、第三篇・星の界、第四篇・月世界への飛行、第五篇・太陽の子供の世星、第六篇・無限の門に立ちて、第七篇・天体の進化から成る十二巻の大作で、地球の自転、公転その他天文に関する一般知識を説明し、巧妙な特殊撮影で、宇宙の神秘感もある興味深い、且平易な学術映画でありました。

また右と前後して「人類の進化」(原名 *Nature and Life*) という作品も公開された。第一篇・単細胞動物から哺乳類、第二篇・大自然の法則としての愛の本能、第三篇・受精と出産、第四篇・種族近似の特長、第五篇・人間と猿から成つていきました。

共にニコラス・カウフマン博士原案の自然科学映画であります。

その他に「スタイナハ若返り法」「水晶体の動物」「榛岩の熱河」「動物の曲芸」「植物の神秘」「緑の放浪者」「萌え出づる力」「池中の驚異」「みんな泳げ」「赤ちやん体操」「夜の猛禽」「森の動物を覗く」「低温」「レントゲン線」見えない気流」などがウファ文化映画の代表的な作品であります。